

●植民地時代・戦後の混乱期を含め、描くことの困難な自画像にあえて挑んだ渾身の著作。丹念かつ冷静な歴史の発掘から、人間に対する真摯な問いかけが浮かび上がる。

韓国人類学の百年

ソウル大学 全京秀 著／岡田浩樹・陳大哲 訳

●目次

日本語版によせて

はじめに——人類学の土着化のために

I 韓国人類学の議論の基盤

- 一 議論の範囲
- 二 私の理解する人類学

II 植民地支配と韓国人類学

- 三 韓国人類学の黎明——近代性と近代化の混在
- 四 日本帝国の植民地統治と人類学的知識の動員
- 五 アカデミズム人類学の出現
- 六 朝鮮民俗学会の統合力
- 七 人類学の周辺で活動した学者たち

III 人類学の専門化における短い復興期——解放と戦争の間

- 八 国立民族博物館と宋錫夏（石南）
- 九 朝鮮人類学会、そして大韓人類学会へ
- 一〇 「宋錫夏・孫晋泰」
- 一一 「人類学科の始まりと終わり」
- 「京城大学」から「国立ソウル大学校」へ

IV 韓国人類学のながれ

- 一二 人類学アイディアの復活
- 一三 北朝鮮学界の動向
- 「社会主義民俗学」から「主体思想民俗学」へ
- 一四 中国東北における朝鮮族の民俗学
- 一五 最近の韓国人類学の国内における傾向
- 一六 制度的次元での変化——学会と学科
- 一七 外国の学会における韓国研究
- 一八 人類学的方法と研究の拡張

V 韓国人類学の反省と展望

- 一九 既存の「学史」類に対する意見
- 二〇 韓国において人類学とは何なのか——分離から統合へ
- 二一 総括と展望

付録

- 一 一九世紀末の欧米人の韓国に関する人類学的研究
- 二 著者別論著目録データベース（一九四六—一九九五年）
- 三 アメリカの大学の韓国人類学関係の博士論文目録

訳者あとがき・解題

参考文献／索引

関係地図・関係略年表・英文目次

人類学史は人類学を構成してきたディスコースに対するディスコースになるわけである。このプロセスにおいて客観性と代表性を立証する基本は、正確で充実した資料の蓄積であることは言うまでもない。正確な事実に基づかず、基本資料があまりないディスコースは、学問ではなく、言葉の遊戯に過ぎないと言い切ってもいいであろう。……

歴史に降りそそいだ支配と破壊のメカニズムによって基本資料のほとんどが隠滅されたことも確認できた。また最近発表された韓国の人類学史に関する研究の一部にも、意図的な排除の疑惑があったと思わざるを得なくなってきた。私は経緯の如何を問わず、隠滅されたに違いない基本資料を求めて古本屋と図書館を探し回り、非公式なインタビューを続けてきた。……

本書の相当部分は、「日本人類学史」にあたる内容構成と重なっていることをあらかじめお断りしておきたいと思う。日本による植民地時代という歴史的特殊性が、韓国と韓国の人類学史というジャンルを覆っているため、本書で論じた多くの部分は「日本人類学史」の延長線上で熟考されるべき問題であるとも言える。このような理由から、本書を読まれた日本の読者は、多次元の自省と重層的な他者化 (othering) が交差する過程を経験することになるかと思う。……

（日本語版によせて）より

体裁

・A5判・並製・カバー
・五六八頁

定価

・六〇〇〇円
（本体価格／税別）

発行所 風響社

114-0014 東京都北区田端四一四一九
電話〇三（三八二八）九二四九
http://www.fukyo.co.jp

注 文 書

センター
取扱品
流通

小出版
地方

発売
風響社 TEL: 03-3828-9249

本体
六〇〇〇円

部

全京秀著／岡田浩樹・陳大哲 訳
韓国人類学の百年

ISBN4-89489-026-7 C3039 ¥6000E

（お客様控え）

ご氏名
ご住所

お電話

月 日